

第1回渡嘉敷村観光協会設立準備委員会 議事録

【実施日時】2018年6月6日（木） 13:30-15:00

【開催場所】渡嘉敷村役場（大会議室）

【出席者】（敬称略）

＜準備委員会出席者＞…計10名

大城良孝（委員長）、玉城広喜（副委員長）、新垣聡、我喜屋元作、仲里隆司、
松本晃、新垣徹、國吉真之助、平田春吉、篠崎健司

＜準備委員会委任状提出者＞…計5名

神里敏明、島村武、金城直、玉城真、宮平鉄一郎

＜オブザーバー＞…計1名

渡嘉敷村商工会 修学旅行担当 田中守

＜事務局＞…計5名

渡嘉敷村：山城淳、内野珠子

ライヴス：花咲宏基、幸喜新、山岸彩夏、

大城良孝 委員長)

本日は、大変お忙しい中、平成30年度第1回渡嘉敷村観光協会設立準備委員会を開催しましたところ、多くの委員の皆様のご出席をいただき感謝を申し上げます。

昨年、本村観光振興計画をしっかりとまとめることができました。その中で、観光協会が必要だという多くの皆様のご意見をいただきましたので、この設立準備委員会の議論を通じて、しっかりと観光協会を設立して、本村の観光業をより発展させていきたいと思っております。

計画では、来年2月に発足して、平成31年4月から稼働開始という目標を掲げていますので、いろいろ皆様のご意見を取り入れて立派な観光協会を設立していきたいと思っております。また、本日は、篠崎先生に「観光協会のあるべき姿」という事で、講話をしていただきます。大学で観光について学生に教えながら、学生と一緒に、観光の現場に足を運び、いろいろな体験をされていらっしゃるということです。本日のお話を参考にしていきたいと思っております。今日は短い時間ですけれども、活発にご意見を出していただけたらと思っております。よろしく申し上げます。

事務局 山城)

それでは議事に入る前に、新年度の人事異動に伴いまして委員のメンバーの交代がございます。今回、代わられた委員の皆様を私からご紹介いたします。

<紹介された新委員名（敬称略）>

渡嘉敷村商工観光課長 玉城広喜（副委員長）

渡嘉敷村船舶課長 我喜屋元作

国立青少年交流の家次長 仲里隆司

環境省慶良間自然保護官事務所 松本晃

渡嘉敷村商工会観光部会長 國吉真之介

跡見学園女子大学准教授 篠崎健司

ライブス 花咲)

それでは、進行につきましては、私の方で行わせていただきます。

最初に、観光協会設立準備委員会の役割の確認についてです。

昨年度の観光協会設立準備委員会で決めましたロードマップに従いまして、確認させていただきます。

その前に、昨年、策定いたしました観光振興計画で、「心ふるえる夢島 とかしき ～この碧を100年先に結ぐ～」といキャッチフレーズを決めましたが、このキャッチフレーズが浸透するように、私どもも努力してまいりますこととお誓い申し上げます。

それでは、事前に配布をさせていただいた資料を基にご説明します。

スケジュールですが、計5回の設立準備委員会を開催しまして、平成31年2月に設立総会、そして4月1日から観光協会が本格稼働するというかたちになっております。

観光協会設立準備委員会のメンバーですが、昨年と同じく、役場の関係各課、商工会、村内の観光関連事業所の皆様、そして環境省の皆様に加え、本年度はコーディネーターとして跡見学園女子大学の篠崎准教授に加わっていただいて、設立準備委員会のメンバーが構成されています。設立準備委員会をサポートする事務局は、商工観光課、商工会と弊社ライブスというかたちを考えておりますが、ここについては、後程、検討していただきます。そして沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、さらには沖縄県内の各観光協会の皆様に、その都度アドバイスをいただくかたちで会議を進めてまいりたいと考えております。篠崎准教授については、皆様に事前にお配りした資料でご覧いただきたいと思っております。今回、篠崎准教授にお力をいただくということを、弊社の方で考えさせていただいたのは、この委員会のコーディネートだけではなくて、将来、跡見学園女子大学と渡嘉敷村との間でいろいろな施策に取り組めるのではないかと、という事も考えました。

篠崎先生のご紹介に関しては、後程、講演がございますので、篠崎先生からよろしく願いいたします。

続きまして、1年間の具体的なスケジュールを皆様にお伝えしたいと思います。

本日の第1回の会議ですが、設立する観光協会のイメージを皆様と共有したいということで、篠崎准教授に「観光協会のあるべき姿」についてお話しをいただきます。篠崎准教授への質問や、渡嘉敷の観光協会はどうあるべきだというご意見をいただきながら、皆様と

議論をしてみたいと思います。

そして、本日の会議を受けて事務局で事業計画案と業務案を作成します。本来、観光協会が担うべき業務を商工会様が多くを担って来られました。また、商工観光課でも担って来られました。それらの業務を一度棚卸して、洗い出しをして観光協会に引き継ぐもの、商工会様で引き続き行うもの、商工観光課で行うもの等を整理していきます。更には、事業計画案を作りまして、7月上旬の第2回委員会で、事業計画案ならびに業務案についてご議論を頂きたいと思っております。

そして、皆様のご議論を持って、修正案を事務局で作ります。そして、第3回委員会で承認を得たいと考えています。さらには、観光協会設立に、必要な書類作りを始めます。その書類案の作成も事務局が担います。また、後程、観光協会をどういう組織にするか、それは一般社団法人にするのか、NPOにするのか、DMOにするのかという議論を、本日、行いますが、その組織を登記する際には、定款というものがなくなってきます。その定款案も事務局で作成します。

そして、お忙しいシーズンを過ぎた9月の中旬に、第3回委員会を開催し、修正した事業計画と業務を確認していただきます。さらには、観光協会の定款の事務局案について検討していただきます。この会議を受けて、事務局で、観光協会の定款案の修正を行い、そして定款ができますと法人の登記の作業に入りますので、事務局で、設立に関わる手続きについて進んでいきます。

10月中旬の第4回委員会は、修正した定款を皆様にご覧いただき、確認いただきます。そして事務局では、手続きに必要な書類の作成と登記に入っていきます。

そして、12月上旬の第5回委員会では、観光協会設立に必要な事項を最終確認いただき、設立総会の内容の確認をいただきます。

そして、来年2月の設立総会に向けて、多くの皆様に渡嘉敷村観光協会が設立するということを知っていただくということで、関係団体への連絡等を進めてまいります。そして、4月1日の本格稼働に向けて移行作業を行います。

次に、本委員会を運営する体制ですが、渡嘉敷村商工観光課には、司令塔になっていただきまして、弊社ライヴスが、運営にたずさわってまいります。その際、沖縄県、沖縄コンベンションビューロー、県内の他自治体の観光協会にもアドバイスをいただきたいと思います。また、篠崎先生の知見もいただきまして設立準備委員会の運営を行ってまいります。

大城良孝 委員長)

役割やスケジュール等につきましては、新しく委員になった方もいらっしゃると思いますが、昨年度、皆様が検討していただいたスケジュールですので、これに沿って協力して進めていきましょう。

進行は事務局に任せますので進めてください。

ライヴス 花咲)

それでは、続きまして、「事務局の設置について」、ご意見をいただきたいと思います。

事務局は、商工観光課、商工会、弊社ライヴスの3者体制というかたちで、提案をさせていただいておりますが、ご議論をいただきたいと思います。

商工会会長の新垣委員におかれましては、いかがでしょうか。

新垣徹 委員)

本日は、商工会から、オブザーバーで、田中を参加させております。商工会メンバーで、事務局員の役割は果たすのは難しいです。現在、来年設立される観光協会が担うであろう仕事を、商工会が行っています。実際、今年度も17校の修学旅行の受け入れをしますので、その業務をしながら、商工観光課、ライヴスと同じような職務内容を行うことはできないと思います。この委員会の事務局員ではなく、商工会から、調整して、指導員も含めて誰かを出席させる努力をするということで、昨日、商工観光課とも話をしました。

ライヴス 花咲)

事務局に関しては、商工観光課と弊社ライヴスで構成し、商工会はオブザーバーでご参加いただけるということによろしいでしょうか。

新垣徹 委員)

できるだけ参加はしますが、田中がいけない場合は、他の者が参加する形で調整をします。

大城良孝 委員長)

商工会から、田中さんを入れていただいて、指導員が参加するあるいは事務局会議に会長が参加する、観光部会長が参加するということによろしいですので、1人お名前は入れさせていただきたいのですが。

新垣徹 委員)

事務局には、商工会は入らず、オブザーバーとして1名ということをお願いします。個人の名前を使ってしまうと、個人ありきになってしまいますので。10月の修学旅行の受け入れがかなり煩雑になるので、事務局から外してもらいたい。

大城良孝 委員長)

事務局からは外れても、オブザーバーで、準備委員会に1名入るということですね。その中でいろいろな調整をしていきたいと。

ライヴス 花咲)

できるだけご負担をお掛けしないようにしますが、業務の洗い出しについては、商工会様が担ってきた業務が多いので、商工観光課と弊社ライヴスが業務の洗い出しをする時には、是非、お力を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。
準備委員会以外でもお声掛けをさせていただいて、よろしいでしょうか。

新垣徹 委員)

はい。

平田春吉 委員)

事務局は、準備委員会の事務局ですか、観光協会の事務局ですか。

ライヴス 花咲)

準備委員会の事務局でございます。

観光協会の事務局に関しましてはこれから議論をしてみたいと思います。

2番目の議題の「事務局の設置について」は、商工観光課と弊社ライヴスが担い、そこにオブザーバーとして商工会から1名、無理のない形で参加いただくという形で事務局を設置いたします。

それでは、篠崎先生から「観光協会のあるべき姿について」お話を頂きたいと思います。

篠崎健司 委員)

あらためまして、跡見学園女子大学の篠崎と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。最初に跡見学園女子大学についてお話ししたいと思います。跡見学園女子大学は、東京にある女子の専門高等教育機関としては、明治8年、東京都内の中では最初にできた伝統ある学校です。実は何年か前に「花子とアン」という朝ドラマがあって、その主人公が、「ごきげんよう」というあいさつをしていましたが、まさにその学校でして、いまでも中高生は、先生に、「ごきげんよう」とあいさつをします。観光については2012年に、「観光マネジメント学科」ができました。そして、4年前に観光だけでなく、地域全体、社会全体にも関わるということで、コミュニティという名称を付けた新しい学部ができて、その時に私も呼んでいただきました。それまでは、民間のシンクタンク、財団法人で、地域振興全体のお手伝いをしていました。学術肌でなく、現場の方が好きという事で、日本全国を駆け回っています。

実は、学生の中に、渡嘉敷村に修学旅行で行ったことがあるという学生が何人かおりました。沖縄で仕事をしないのかと問われました。それで、渡嘉敷に来ました。どんなことを学生とできるかという事で、フィールドワークをしている時に、フェリー乗り場で、観光客にアンケートをとっているライヴスと出会って、今回このような機会を得ました。

それでは、本題に入ります。「観光協会のあるべき姿」というお題をいただいておりますが、それはまさにこれから皆様が議論して、見つけるものだと思いますので、少しテーマを変えました。これから作る観光協会に期待されるものについて考えました。日本ではいろいろな観光協会が既に存在しますが、基本スタンスは「待ち」なんです。観光客にパンフレットを配布したり、問い合わせが来れば返事をする、電話がかかってくれば答えてあげるという8割9割の観光協会は「待ち」の姿勢です。国も、それではいけないということで、日本版DMOという新しい組織を作り、インバウンド政策に力を入れて、そのための受け入れとしての観光協会のあり方を、全国的に見直しています。しかしながら、現状は、外に打って出ている観光協会は数少ない。これから、地域の人しか知らない観光スポットを全国にPRしましょうとか、観光客が喜びそうなツアープランを企画しましょうとか、もっと「攻め」に転じましょうということが言われています。渡嘉敷であれば何を全国に売り込んでいくのか、皆様に議論してまとめていく必要があります。いろいろな方が地域資源を活用されながら観光事業を行っていると思いますが、それをまとめ上げていくことが必要です。

日本版DMOとかDMCというような組織が必要と言われていますが、観光協会と何が違うのかというと、観光協会は、観光事業者が中心ですが、農林水産業事業者とお土産を作る製造業者とか地域の多くの方々を巻き込んで組織を作るのが、DMO、DMCになります。広く地域全体に関わって、合意形成を図っていくことが求められています。

さらに、「攻め」の姿勢が必要で、全国的に地域の知名度を上げるためのマーケティング戦略とか戦術をたて、実行して、それが結果うまくいっているかどうかを検証して、それを改善していくというPDCAサイクルを運用することが必要です。地域でいろいろな観光プランを立案して、それを実行するという組織がこれから観光協会に求められているのではないかと考えます。

しかしながら、いろいろな地域に足を運び、話を聞きますと、お金もないし、人もいないとお聞きします。また、イベントをこなすのに手一杯で、新しいことを考えると、新しいことを始めるとかは無理というお話をお聞きします。活動は、ボランティアが支えているとか、役職者が名誉職ばかりで実務を知らないとか。最近では、観光協会の事務局長を公募するところが出て来ましたが、最初はアイデアも豊富で、地域に新しい風を吹き込んでくれて良いのですが、気が付くと地域から浮いた存在になっていたりとかで、結局、任期2年でいなくなってしまったということも起こっています。

知ってもらおう、来てもらおう、観光地のプロモーション、企画立案、実施に手が回っていないということが、現状だと思います。

その中で、国では、観光協会を、一般社団法人にするとか、DMOとかにするとか組織の在り方を変えて来ましたが、大事なのは、どういうことをしたいがために、観光協会を作るのかということで、その観点から、NPOがいいよねとか、一般社団法人がいいじゃないかとかを議論しなければならないと思います。

また、これから、この準備委員会で議論をしていくわけですが、実際に、観光協会が活動し始めると、地域の皆様の協力が必要で、地域の関係者を巻き込んでいかなければなりません。その観点で申し上げますと、全員が納得し、全員が合意形成していくことが非常に大事でなるのではないかと思います。会議の中では、それぞれの方々が発言され、喧々諤々、時には、紛糾するかもしれませんが、合意形成するという努力は必要かと思えます。次に、大学では、データの収集、分析ということを毎日やっていますが、産官学連携ということで、私たちが活用していただければと思います。マーケティング、ブランディング、プロモーション分野で民間手法を活用するという話をしましたけれども、その分野では、学生のセンスは馬鹿にならないです。地域振興を30年やってきましたが、そこで考えているアイデアが、彼女たちの一言で覆されてしまうことがあります。そんなセンスを持っている学生が結構います。そういう学生をうまく使っていただいて、渡嘉敷村と学生のコラボの企画を実現したいと思っています。彼女たちの情報発信力は馬鹿にならないです。彼女たちは、SNSのフォロワー1000人、5000人という学生が結構います。一つ一つの写真を真剣に撮っています。Instagramに1枚の写真を載せるのに3000枚ぐらい写真を撮ることもあります。一枚の写真を撮るのに一日かけて写真を撮ります。そのようなことをしてフォロワーをつくっています。彼女たちのフォロワーは、男子学生であったり、同世代の女子で、地域振興、観光振興にダイレクトに結ぶ人たちばかりとは言えないかもしれませんが、彼女たちのセンスを使わない手はないと思います。チャンスをいただければ、学生と一緒に来て、インスタ映えする地域資源を探してみたいと思います。皆様のお忙しい時期に重なる夏休みになりますが、学生と来島し、地域の良いところであったり暮らしを情報発信できたらと思っていますので、その時にはいろいろと教えていただければと思います。

最後に、人生の先輩で、新潟で地域おこしを継続して行われている方がいまして、その方の印象的な話についてお話します。それは、自分たちの地域は、市場原理の中で動くのはやめたと。それまでは、あそこでいいお米が作れたと聞けば、勉強しに行ってそこよりもっといいお米が作れるよう努力した。自分たちはこの値段で出そうと、しばらくするとちょっと安い値段でお米がでてきた、そしてそこに負けないようもっと努力して安くした。そういうのがもう嫌になった。だから市場原理の中で勝ち残っていくためには、必死の努力をしないといけない。市場原理の中では、それをやり続けるといけないからやめたと。その方は、市場原理の中では戦わない、それ以外のところで戦う、それ以外のところに、自分たちの存在を見いだすということを言われました。そのお話を聞いて、気になっている地域がありまして、北海道の東川町です。東川には、国道がない、鉄道もない、水道もない。しかしながら、この15年間で人口が7千人から8千人に増えました。札幌も人口が減っている中で、北海道の僻地で人口が増えています。東川町は、何をやっているのかというと、ブランドづくりではなく、そこに住んでいる人たちの暮らしの豊かさを充実させる東川スタイルをつくることです。東川でしかできない豊かな暮らしを磨いていくこと

です。渡嘉敷村もいろいろな地域資源があって、心の底から素晴らしい島だと思います。国立公園にも認定され、自然豊かな素晴らしい地域だとは思いますが、資源は資源です。資源をどういうふうに価値を高めていくのか、そのままの資源だと競争になると思います。沖縄全部の島々を巡ったわけではありませんが、沖縄の島々の中で一番美しいかというかどうか。その資源の価値をどう高めていくのかということが大切だと思います。都会では、地方の環境の良いところで子育てをしたいという若い人たちがたくさんいます。自然が豊かな生活を売りにして成功している自治体もたくさんあります。渡嘉敷の資源が素晴らしいことは分かっているので、住民の人たちが、その素晴らしい環境を活かした暮らしをしている。都会では実現できない豊かな暮らしを実現し、その豊かな暮らしを情報発信することも、観光とは離れますが、渡嘉敷を全国に紹介できる機会になると思います。最後は、余計な話をしましたけれども、観光協会のあるべき姿を考えながら、来年の2月設立に向けて、この委員会で、皆様と議論を深めてまいりたいと思います。

ライヴス 花咲)

篠崎先生のお話を含め、観光協会のあるべき姿について、質問がありましたら、受け賜りたいと思います。

新垣徹 委員)

先程、組織の形体の話の中で、日本版 DMO という言葉が出てきますが、世界基準と違うところがあるのでしょうか。

篠崎健司 委員)

DMO は、元々はアメリカが発祥で、それを日本の中で受け入れられるということで、観光庁が“日本版“とっています。

新垣徹 委員)

組織の形態としては、ほとんどが、一般社団法人ですが。一般社団法人が多いというのは何故でしょうか。

篠崎健司 委員)

NPO よりは、一般社団法人の方が、組織としてしっかりしているイメージがありますし、設立の手続きが簡単ということがあります。

認定 NPO であれば、寄付について税金控除がありますが、日本はなかなかそこまで個人が税金控除してもらうため、NPO に投資することはありません。

ライヴス 花咲)

昨年度最後の設立準備委員会で、コーディネーターの川端さんに作っていただいた資料と沖縄県内の観光協会の組織についての資料をご用意させていただきましたが、これらの資料を見ても、全国の中でも、沖縄県内でも、一般社団法人が多くを占めていることが分かります。

公益法人やNPOについては、NPOにする場合には文科省の管轄なのか経済産業省の管轄なのか等々、少しハードルが高くなり手続に時間が掛かります。株式会社となると、株主に対して利益を生むことが目的になってきますので、公益には結びつかないのではないかと思います。選ばれているところは少ないと思います。

国は、DMOを推進しています。DMOに予算をつけるというかたちで、DMOの設立を促しています。沖縄では、沖縄観光コンベンションビューローが、広域DMOに認定されました。

私も、先日お話を聞きしに行って来ましたが、どうやってお金を生むか、ということを実際に考えていらっしゃいました。これからの流れとしましては、予算もつきやすいということで、DMOの設立が多くなっていくのではないかと思います。沖縄県内では北谷町、八重山諸島でDMOの設立にむけて動いていると聞いています。

ただDMOとなると、観光事業者だけではなくて、農林水産業の事業者、商業者の皆様に組織に入っていただかなければなりません。多くの方々をまとめることは、多くの力と時間が必要で、なかなかDMOの設立が進んでいないのが現状のようです。座間味村は、地域DMOの設立を目指していらっしゃいます。観光協会とDMOの役割分担をどうするか等課題がおりのような感じです。

また、NPOでは、おおぎみまるとツーリズム協会があります。東村にも、NPOがありますが、エコツーリズムを進めていこうという時期があって、その時期にできたのではないかと思います。現在、大宜味村では観光協会をつくるということで、同じような準備委員会を開催しているようです。NPOはありますが、一般社団法人で観光協会をつくるということで進んでいるとお聞きしています。

また、任意団体もありますが、観光協会を組織として持っていない地方自治体で、商工観光課、産業振興課が形としてつくっているという状況だと思います。

平田春吉 委員)

一般社団法人の場合は、いろいろな制約はないか。将来、観光協会が資金を調達する時にどうするか。そういったことが分からないと、公益にした方が良いのか、一般社団でやっていくのか、分からない。

ライヴス 花咲)

資金調達で申し上げますと、沖縄県内の観光協会は、一括交付金を含め地方自治体からの予算が資金となっていて、一般社団法人だと、予算を問題なく受けることができると

ということがあって一般社団法人が多いのではないかと思います。
任意団体であれば少し問題があるのではないかと。

大城良孝 委員長)

大宜味村のお話をしていましたが、おおぎみまるとツーリズム協会を、一般社団法人に変えるということですか。

ライヴス 花咲)

大宜味村につきましては調べきれていないのですが、例えば国頭村のツーリズム協会は、観光協会に連携する形でツーリズム協会は残していくと聞いています。

大城良孝 委員長)

観光協会が自立・自走できることが理想ですが、実際には職員を5~6名抱えることになるかと思いますが、そう考えると、自力で運営することは厳しいことが予想されます。行政と連携しながら、経営もしていくということを考えると、一般社団法人がふさわしいと感じます。平田委員の質問で、その違いの話ができましたし、昨年度の川端さんの講演の時の資料にいろいろ書いてありましたが、そこからしても一般社団法人がふさわしいのではないかと感じますが、皆様は、どの組織形態がいいのかどうなのか、どうぞ意見を出していただきたいと思います。

ライヴス 花咲)

現在、議事次第の4番の「観光協会の法人組織の在り方」について、議論が始まっています。引き続きお願いいたします。

組織の在り方を決めないと、事業計画が作れないということがございます。定款もNPOと一般社団法人で違ってきます。皆様には、ご議論いただければと思います。

我喜屋元作 委員)

いきなりDMOと言うのは難しいですか。

ライヴス 花咲)

座間味村のお話をお聞きしますと、まずは観光協会をつくってDMOにステップを踏んでいくように思います。

新垣徹 委員)

壁がかなり高い。国土交通省の認可が厳しい。

一方で、ハードルが高いDMOになれば、手厚いサポートが受けられますが、タイムラグが

ら考えると、委員長がおっしゃられましたが、行政からの支援を受けやすく、登記上の手続きも簡素な一般社団法人が良いのではないかと思います。

玉城広喜 副委員長)

DMOについては、将来的に慶良間の地域DMOをつくるということはあるかもしれません。

平田春吉 委員)

将来、形態は変えてもいいということですね。

大城良孝 委員長)

一般社団法人として初めて、5年～10年活動して、作り変えることもあるかもしれません。それでは、一般社団法人でスタートするという事によろしいでしょうか。

ライヴス 花咲)

それでは、一般社団法人から、渡嘉敷村の観光協会を始めていくという事で手続きをしていきます。

続きまして、観光協会の先進地のヒアリングもしくは視察について議論をお願いしたいと思います。弊社の方で、座間味村観光協会と南城市観光協会の2つの観光協会を候補として上げさせていただいております。

1つ目の座間味村観光協会は、人口規模、自然環境が類似してしまっていて、同じ観光についての課題を持っておりまして、その課題への観光協会の取り組みが参考になるかと思えます。また、DMOへの取り組みも始められてしまっていて、自立自走型の経営の取り組みについても、先進的に行っています。

南城市観光協会については、県内の観光協会の皆様に、どこか県内で参考になる観光協会はありませんかとお聞きしますと、南城市観光協会のお名前が上がってきます。自動販売機や、ゆるキャラを使ったオリジナルグッズの販売など、収益確保の色々な施策を打っておられ、自立自走するという観点でいうと、参考になるかと思えます。一点、斎場御嶽があるという事で、アドバンテージが大きいところがあります。

平田春吉 委員)

以前に議会で、伊江島の観光協会と会ったことがあります。伊江島が、修学旅行の受入も行っているのです、伊江島が良いのではないかと。

玉城広喜 副委員長)

これから、観光シーズンに近づくこともあり、視察と考えると、スケジュールはいつになりますか。

ライヴス 花咲)

観光協会を作るための視察と考えますと、参考にするという点で、議論が深まる前の7月の上旬に行かなければならないと思います。

大城良孝 委員長)

観光協会を立ち上げるわけですので、条件が似ている方が良いかと思います。また、視察ができたかと思っています。伊江島は非常に活発に活動していると聞いていますので、議論していただければと思います。

ライヴス 花咲)

県内の観光協会の皆様に、参考になる観光協会、観光協会の先進地についておたずねしましたところ、2つの協会の他に、今帰仁村観光協会の名前が出て来ました。そこで、ご連絡をしてみました。受け入れが厳しい印象がありましたので、候補に上げませんでした。伊江島に関しては、お名前が上がらなかったため候補に上げませんでした。

我喜屋元作 委員)

時間的には座間味村が良いのではないかと。

新垣徹 委員)

座間味村は、規約作り等について参考になると思います。

南城市は、自己財源確保の取り組みをしているので、自立自走を考えるなら、大変参考になるかと思します。

國吉真之介 委員)

両方が良いのではないかと。

新垣徹 委員)

南城市は、元気があります。私は会議で良く会っていますが、委員の皆様に実情を見ていただきたいと思っています。

大城良孝 委員長)

それでは、視察の件は、多数決で決めましょう。

<挙手の結果>

座間味 2名

南城市 6名

ライヴス 花咲)

それでは、7月上旬ということで、南城市観光協会にお話をさせていただきます。

大城良孝 委員長)

多くの皆様が行けるように、日程を調整したいと思います。あらかじめ、予定が入っている日程がありましたら、連絡を入れていただきたいと思います。

ライヴス 花咲)

それでは、観光協会に期待することに移りたいと思います。

松本晃 委員)

自然環境を守ることと観光振興が相反するという話もありましたが、持続可能な観光となるように、観光協会には観光振興だけでなく、自然環境の保全についても取り組んでほしいです。

大城良孝 委員長)

商工会で行っているものも含めて調整して、守るものを守り、活かすものを活かすような団体にしていきたいと思います。

松本晃 委員)

渡嘉敷村は国立公園にも指定され、自然が豊かな場所ですので、自然環境の保全の視点も持った団体になってほしいです。

平田春吉 委員)

一番重要なのは、商工会とのからみになると思います。

新垣徹 委員)

次回の議題としてもいいのですが、商工会と観光協会が両立できるようにしなければならぬと思います。他の自治体で、商工会と観光協会の両立を、どのように行っているか、会費の工夫等、事務局で調査して、この委員会で報告してもらい、議論してもらいたいと思います。

大城良孝 委員長)

観光協会と商工会は、両立してもらわなければなりませんので、事務局は、次回の会議までに調べてください。

仲里隆司 委員)

先程の篠崎先生の講演の中で、プロモーションが重要との話がありましたが、参考にできる観光プロモーションはありますか。

ライヴス 花咲)

沖縄県内では、国頭村の「やんばる ふんばる」が成功事例として有名です。また、全国的には、島根県の海士町が成功事例として、よく取り上げられます。

我喜屋元作 委員)

入域数が伸びていくことは嬉しいのですが、アクセスの限界もあり、逆に入域を制限して、価値観を上げるということもできると思うのですが。

大城良孝 委員長)

渡嘉敷村の価値を高めていくことは必要です。一方で、入域数を制限すると、船舶の利用料が落ちていくと、役場として厳しい話です。宿泊をする人に来て欲しいのに、日帰りの人しか来ないということも好ましくありません。どのように制限していくのかと調整は、難しいとは思いますが。

ライヴス 花咲)

昨年度の観光振興計画策定委員会では、冬場のオフシーズンに観光客を増やして、年間で平準化できれば、夏場の限界に来ている受け入れも変えることができるのではないかとの意見もありました。

新垣聡 委員)

経済建設課から申し上げますとは、観光メニューの中で、農業、水産業が関係するものが少ないので増やしたい。休耕地も多いので活用できるのではないかと思います。農業、水産業も巻き込むべきと思います。

大城良孝 委員長)

村が関わるべき事業ですね。観光客への体験メニューで組み込むことができれば良いかと思えます。

新垣徹 委員)

修学旅行の受入をしまして、海が時化た場合、何もできない状況が生まれます。海ありきでの旅行ですが、海が使えなかった時に、200名がどうやって時間を過ごせるかということを考えられたら良いかと思えます。

視察に行く時はそういう事を含めて学びたいと思います。

大城良孝 委員長)

時間となりましたが、そろそろよろしいでしょうか。

皆様に、組織の形態、視察先を決めていただき、形が見えてきました。

ありがとうございました。

これで、第1回観光協会設立準備委員会を閉会します。

以上